

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスユニオンクラブ		
○保護者評価実施期間	令和 7年 11月 1日		～ 令和 7年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	令和 7年 11月 1日		～ 令和 7年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・桶川市との提携によりサンアリーナの年間使用が許可されているので、天候に左右されず曜日ごとに違った運動プログラム(フットサル・バスケット・バドミントン・トランポリン・器械体操など)の実現が可能である。	・事業所内のプレイルームにおいては、おもちゃ・ボードゲーム・トランプ等の遊びを通して他児とのコミュニケーションを繋ぐ支援や、絵画制作等で表現の喜びを養い、体育館での運動療育と併せ五領域を踏まえた支援を行っている。	・培ったコミュニケーションを「安全にスポーツに取り組む」「ルールを守る」「仲間と力を合わせる」「あきらめない気持ちを持つ」などの支援へと繋げていく。 ・出来なかったことが少しずつ出来るようになる喜びや、成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育む言葉掛けをしていく。
2	普通級・支援学級・特別支援学校・児童発達支援の園児等、様々な環境の子ども達が通所しているが、多様な経験を持つ職員が見通しを立て、幅広い視点から一人ひとりに適した療育を行っていること。	・その子その子の思いを察知したり推測して受け止め、素早く全体に周知するよう取り組んでいる。	・職員の誰もが周知伝達役であるという意識を持ち、情報を共有し、より良い支援に生かしていく。
3	・毎日利用の子が多数いるので、人や環境に慣れ、全体的に仲が良い。また年齢が上がるにつれ、手伝いや年下の子のお世話が自然に行われている。	・毎日顔を合わせる子もいれば週に何回かの子もいるので、様子をみて職員が間に入り、一緒に活動をすることで幅広い繋がりを持てるような支援を行っている。	・「一人で好きなことをじっくり」「みんなで楽しくわいわい」など、子どものその日の状態や目標に沿った支援を日々考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・発達の個人差がある中で、運動療育として一人ひとりの能力が最大限に生かされているのか、出来ることが着実に増えていっているのか、など検証を細かくしていくことが課題。	・下校後の短い時間ではじっくり取り組むことが難しく、一定時間を消化するとそれぞれの好きな遊びへと移行してしまうため、進捗が見えづらい。	・楽しく出来るようになることを第一と考え、飽きずに積み重ねが行える魅力あるプログラム作りを考え、実践していく。
2	・サンアリーナが使用出来るという良い点に付随して、事業所からの移動時に荷物の管理や乗降車で慌ただしくなる。	・活動時間が限られているため、有効に使用しようと急がせ気味になってしまう。	・忘れ物なくスムーズに移動出来るよう職員の役割分担を徹底し、子ども達の習慣化を図っていく。
3			